11月園だより

２０２０年度 年主題〈こころが満たされる〉

0･1･2歳児１１月主題「ありがとう」

月のねがい

◎神様がくださったたくさんの恵みに感謝する

◎生活や遊びの中で、自分の気持ちや発見を表現する。

◎自分でやりたい気持ちと、うまくできずにじれる気持ちを保育者に受け止めてもらう。

3･4･5歳児１１月主題　「感じる」

月のねがい

◎神様に与えられている一人ひとりの賜物が生かされて遊び、生活する。

◎自然物（木の実や落ち葉）で遊ぶ経験をする。

◎遊びの継続が楽しくなり、期待や意欲を持って園生活を送る。

◎自分たちの生活が様々な人に支えられていることを知り、感謝する。

今月の聖句　「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。」

伝道者の書 12:1

コロナ禍の中、世界中で人の集まりを自粛したり、規制されたりしています。ウィルス感染に歯止めをかけるべく、致し方ない処置です。そういう中、多くの人々は「神はどこにいるのか」と問いかけています。天災は万人に振りかかります。人間の側に責任は問えません。けれども、災いが起こった時、人による道徳悪が引き起こされるのも現実です。コロナ禍の中、トイレットペーパーやマスクの買い占めがありました。自粛期間中に移動した人への誹謗中傷問題もありました。これらは人が引き起こす道徳悪です。

大災害やコロナのような自然災害、癌のような病が起こるのは、神がいない証拠だと訴える人もいますが、この無神論的思想では、万人が共通して持つ倫理道徳観がどこから生まれるのか説明がつきません。そのような考えでは、強者が弱者を食いつぶし、強者のみが生き残るのが自然の流れとなり、そこに倫理道徳は生まれません。つまり、コロナで弱者が亡くなるのは当然であり、弱者への慰めや配慮の思いはなくなります。

けれども、聖書が指し示す天地創造の神は、私たちに倫理的生き方を求めます。私たちがどう生きるべきかを指し示す道徳的基準も聖書を通して与えて下さいました。そのような神を信じて生きるということ、あるいはその基準に照らし合わせて自らを省みる生き方というのは、コロナのような災害が起こった時にこそ、その真価を発揮します。　協力牧師　池田基宣

１１月の行事予定

4 日（水）	下西小学校訪問（年長児）
6 日（金）	誕生会（２才以上児 10 ～ 12 月）
7 日（土）	職員研修（午後）
11 日（水）	給食バイキング（３才以上児）
12 日（木）	弁当日
17 日（火）	父母の会役員会
21 日（土）	入園説明会
28 日（土）	持久走大会・弁当日
予定	やきいもパーティー

１２月の行事予定

2 日（水）	持久走予備日
8 日（火）	クリスマス会予行
12 日（土）	クリスマス会　弁当日
16 日（水）	もちつき大会
18 日（金）	2 学期終園式
19 日（土）	めぐみ組誕生会(9~12 月生)

実りの秋・読書の秋

先日の運動会は順延の上、体育館での開催となりましたが、子どもたちはいつもの笑顔と、いつもとチョット違う緊張の中で頑張る姿を見せてくれました。保護者の方々には、ご理解、ご協力をいただき誠ににありがとうございました。　さて、こども園では芋ほりに出掛け、おにぎり･スープパーティーを楽しみました。また、11月には焼き芋パーティーを計画し種子島の大地の恵みをいただく、"秋"を満喫します。おにぎりで使うお米は、4月にくじらさんが4めいろうこども園の田んぼに植え、8月に稲刈りをして乾燥させてから脱穀したものです。足こぎ式の脱穀機に稲を持っていかれそうになりながらも、藁をしっかり掴んで脱穀したくじらさん。いるかさんは、割り箸でもみ殻を藁から削ぎ落とします。「これ、もう食べられるかあなぁ？」と聞いてみると、「まだだよ!まだ、この皮を剥いてお米にしないと!!」と、いるかのKちゃん。お米にしてから皆でおにぎり･スープパーティー♬炊きあがったお釜の蓋を開けると、キラキラお目めで「美味しそう！」「ごはんの匂い」「白い！」と大騒ぎ。目で見て、匂いを感じて、舌で味わい、全身全霊で秋を感じることでした。

ひかり、めぐみ組では読書の秋も到来!!0歳児は自分で絵本のページをめくりじーっと見つめ、1歳児は「読んで！」「〇〇がいい」と本持ってきてリクエストします。2歳児は絵を見ながら「あるところに子ぶたがいました。オオカミがやってきて、フウー。うわぁー助けて～。オオカミは帰っていきました。おしまい」（3匹のこぶた:Kくん）と、超短編ですが絵本の内容はしっかり理解しており、自分で読み聞かせをしています。心地よく過ごしやすい秋。子どもたちと五感をいっぱい使って、「〇〇の秋」をもっと見つけていきたいと思います。

主幹教諭　伊豆元

雑草に学ぶ

肌寒い朝夕を迎える季節になりました。秋晴れの日中は暖かい木漏れ日と心地よい風に包まれて、子どもたちは元気いっぱいに過ごしています。コロナ禍の中、運動会もおすもう大会も無事に終了し、職員はホッとしているところですが、気持ちは早くもクリスマス会の持ち方に思いを馳せています。

さて、園内の木々がたくさん葉を落とし、掃除が大変な時期ですが、まだまだ雑草は元気なようです。広い敷地の維持は、雑草との戦いでもあります。植物学の立場からは、雑草は決して強い植物とも言えず、むしろ弱い植物だそうです。一般には強いというイメージを持たれているこの雑草。残念ながら除草剤などでは雑草を完全に根絶することは難しいですね。しかし、この雑草を完全になくす方法が一つだけあるそうです。それは意外にも「雑草をとらないこと」だとか。まるで禅問答ですね。草取りをしないと雑草が次々とはびこっていく。やがては雑草ばかりか潅木などがどんどん生えてくる。そして長い年月を経て、そこはついには森となってしまう。「雑草」と呼ばれる植物は、一般に他の植物との競争に対して非常に弱い植物であるため、大型の植物や木々が生い茂ると生存できなくなってしまうのです。つまり、私たちが雑草を絶やすために草取りや除草をすることが攪乱（かくらん）となり、結果として、雑草の生存を助けていることになります。攪乱とは、たとえば、洪水や山火事、土砂崩れなど天変地異がその一例です。この予測不能な攪乱がなぜ雑草にとって有利なのか。その理由は、自分にとって生存が困難な環境は、ライバルとなる他の多くの植物にとっても不利な条件であるのです。そこに要求されるのは、けんかの強さよりも、次々と襲いかかる困難に対応するサバイバル能力ではないでしょうか。人間の世界でも安定した環境の下では実力どおりの結果になり、番狂わせの可能性は低いといえるでしょう。悪条件な環境が生存競争の場であれば、「弱い植物」とされている雑草にも活路が見出せる。むしろ悪条件での戦い方を身につけることができれば、強い相手よりも有利になるチャンスなのです。雑草にとって、逆境は敵ではないのです。自らの生存に必要な味方なのです。市場の競争においては、普通なら資本力や人材が豊富な大企業が勝つのが必然です。しかし時として、堂々と勝つこともあります。世の中は予測不能の出来事が次々と起こり、その変化に対応できなければ大企業といえども倒産の憂き目に遭います。むしろ大企業の方が組織が大きいだけ、本当は大きな環境の変化には弱いかもしれません。コロナ禍に苦しむ今も然り。経済環境や自然環境の激変は、誰にとっても等しく嫌なものです。でも、その悪条件を乗り越えることができたら、逆にそれが自分を守ってくれる盾となりうるのです。幼いときこそ、人生の規範となる正しい根を伸ばし、逆境を味方にできる心を育てたいものです。

寒暖の差を感じるこの頃。突然の発熱も多くみられる時期です。子どもたちはなるべく薄着を心がけ、うがいや手洗いの励行を続けて冬に備えてまいりましょう。

学園長

カラダとココロの健やかな発達を

（巡回訪問の目的と意義）

乳幼児期は、体と心の発達の面から最も大切な時期と言われます。子どもには、家庭で見せる姿と集団で見せる姿、その両方がありますが、そのどちらも子どもの真の姿です。３才児検診や就学時健診等では、その両面から診ていくことが大切になってきていると言われています。その意味で、行政主催による巡回訪問が行われ、子どもたちの園での生活や活動の様子を診ていただいています。

※いろいろな困り感が見えてきます。

巡回訪問では・・・

☆子どもの発達に関する専門家の方々に、集団で過ごす様子を観ていただき、子どもが困っている場面や状態を整理しつつ話し合い、個別の手立てを検討します。

☆生活環境を整えることで、子どもたちの力が少しでも発揮できるようにしていきます。

※そのため、巡回訪問を終えてから・・・

巡回訪問で出た手立て等の情報を保護者の方と共有し、子どもたちの健やかな育ちへ丁寧につなげていけるように保護者面談等を実施してまいります。その際は、お声かけさせていただくこともありますので、宜しくお願い致します。

子どもは未来の宝

将来、子どもがよりよく生きていくために、幼少期における楽しい遊びや経験は大きな力になります。誤学習にならないよう、子どもの健やかな育ちと保護者の方々の楽しい子育てにつながるよう願っています。

また、支援の必要な子どもたちも、社会の中で適切な環境を工夫することで、みんなと一緒に自己を発揮して過ごしていくことができます。また、子どもたち自身が自己を受容し、がんばる力を持てることを保護者の皆様にも理解していただき、共に応援していければと願っております。

園長　圖師　愛